

歳時記

天王信仰

—疫病除けとしての天王さん—

男川流域を歩いていると各所でお天王さんと親しまれている祭りが行われています。お天王さんとは、津島神社のことを指します。愛知県津島市の津島神社は、聖地を疫病から守る神「牛頭天王」と結びつき、牛頭天王社、お天王さんと呼ばれ、親しまれてきました。

岡崎の各所でも津島神社から神札を受けてきて、石の祠、木の祠に納め、七二日間または五六日間、各戸、各組で順番に毎日交替で参ることを現在も続けています。

特に夏山町下柿平での祭礼は、例年七月一五日ぐらいに仮宮建て（諏訪社境内、根上がり大スギの所）を下柿平全戸（三三戸）で行います。この祭りの特色は、竹とヒノキの葉で祠を作り換えていく作業を毎年行っていることです。仮宮作りは、旧祠をシャモリ（社守）さんが塩で清めて、参拝し、祠の中から納めてある津島神社の神札、賽銭を取り出します。この儀礼が終わると、いよいよ解体作業に取り掛かり、同時進行で、新しい祠の部材作りが始まります。四本の竹柱で仮宮

の基礎を作るのですが、設計図などは無く、すべて旧祠の部材を見本とし、材の大きさ、穴を開ける位置、細かい飾りのつくりなどを



シャモリ（社守）による祝詞奏上風景

写し取って、作業を進めていきます。そして、組み立てにかかります。

仮宮が完成すると、シヨウヤさんが本年度受けてきた神札を昨年度の神札の上に乗せ祠の中へ納めます。この後、シャモリ（社守）さんによる祝詞奏上が行われ、最後に全員で心経（般若心経）を唱えて終わります。

昨年この祭りを見学させて頂いた時に強く心に残ったこととして、地域の人々が寄り集まり、ムラの幸せと結びつきの大切さを若い世代の人達に伝えていこうとする光景がとても印象的でした。未永く残してほしい、地域の伝統です。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本欽也

よくわかま病気の話

ヘリコバクターピロリ感染症

ヘリコバクターピロリ（以下HP）は、ヒトの胃に生息するらせん状（ヘリコ）の細菌（バクター）です。胃の出口付近の幽門部（ピロリ）に好んで住み着くため、この名が付けられました。HPはウレアゼという酵素を分泌し、胃の組織に障害を与えることで潰瘍を引き起こします。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍の患者さんの感染率は高く90割以上と言われています。感染の診断には、内視鏡を用いた検査、呼吸を使った検査、血液によるHP抗体測定、便のHP抗原測定の内いずれか一つを用います。胃潰瘍、十二指腸潰瘍の患者さんでは1つの検査法で感染がないと判定されても、他の検査を追加して慎重に判定することもあります。

HPの治療（除菌）は潰瘍治療薬と2種類の抗生物質の計3剤を1日2回、1週間内服します。薬の飲み忘れや治療中の喫煙により

治療（除菌）率が低下すると言われるので、治療中は飲み忘れないことや禁煙が必要です。それでも除菌率は8〜9割とされ、1度で除菌できない場合はさらにもう1回の除菌治療が保険上認められています。

今のところHP除菌治療や感染診断の保険診療が認められている病気は、胃潰瘍と十二指腸潰瘍です。しかし、日本ヘリコバクター学会の治療ガイドラインでは、HPの除菌が胃癌予防や他の病気の治療にも有効であると提言しており、今後は除菌対象となる病気の範囲が広がっていくと思われるます。

岡崎市民病院 消化器内科

医師 大矢和広
内視鏡センター長 内田博起

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。